

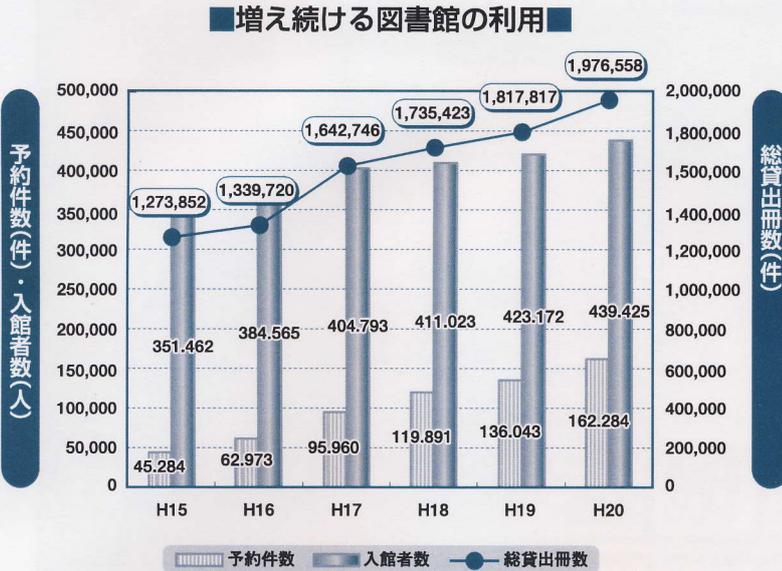
特集1

安城市新図書館基本計画を策定しています

新たな「学び」の拠点整備と 中心市街地の活性化

中央図書館の現状

現在の中央図書館は昭和60年



7月に移転開館し、24年が過ぎました。延床面積3945㎡、蔵書収容能力35万冊で開館当時としてはかなり大きく斬新な図書館でした。また、昭和55年から公民館図書室も順次開設し、図書館サービス網の充実に努めてきました。

その後、公民館図書室とのオンラインシステムやインターネットによる蔵書検索・資料予約館内利用者端末、自動貸出機の導入などにより、貸出冊数や予約件数、入館者数は飛躍的に増加してきました。

その結果、中央図書館と9つの公民館図書室、保健センターでの絵本貸出を加えた全体の平成19年度市民1人当たりの個人貸出冊数は10・4冊となり、県内35都市中第3位、全国の人口15〜20万人の48都市中でも第3位となっています。さらに、中央図書館の入館者数も昨年度は

44万人で、年々利用者が増加しています。

図書館が抱える課題

- ①市民の多様なニーズへの対応
少子高齢社会の進行やライフスタイルの変化などにより、市民の図書館に対するニーズが多様化しています。例えば、「シニア向け支援」「ビジネス支援」「ヤングアダルト(中高生向け)支援」などの新たなサービスの展開が必要となっています。また、新たな図書館利用者を開拓することも重要な課題です。
- ②閲覧席や書架などの不足
現図書館は、資料の貸出・返却を主体として設計・建設されているため、落ち着いて本を読むことのできる席が不足しています。また、施設面積の制約から閲覧席や雑誌、AV資料(C・D・DVD)用の書架を増設し

- ③蔵書収容能力の限界
現図書館の蔵書収容能力は35万冊ですが、蔵書数は38万冊を超えています。収容能力を大きく上回っているため、本来であ



昭和60年7月の開館から24年が過ぎた中央図書館

“中心市街地拠点施設”のコンセプトは「地域力を育む健康と学びの拠点」

まちのにぎわいを創出し、中心市街地の活性化を図るため、今年3月に『中心市街地拠点整備基本計画(素案)』を作成しました。

「地域力を育む健康と学びの拠点」をコンセプトに、「学び」「健やか」「交わり」の大きな3つの機能を中心に、公共施設としての図書館と民間施設を有する公民複合施設の整備を計画しています。

※「中心市街地拠点整備基本計画(素案)」は、市公式ウェブサイト(望遠郷)をご覧ください。

今後の事業スケジュール予定

今年度→「中心市街地拠点整備基本計画」・「新図書館基本計画」の策定

※12月ごろに両計画に対する「パブリックコメント」を予定しています。



平成22～24年度→協議・設計または事業者選定など



平成24年度以降→工事着手予定



⑤ 現図書館の増築は不可能
現図書館は、3方向を道路に囲まれ、玄関前に駐車場があるため、横へ増築するための面積も十分確保できない状況です。また、現行の階層で建物の構造計算をしているため、上層への積み増しも不可能です。



(出) (日) を中心に混雑する中央図書館の受付

れば保存すべき資料の一部も、収蔵スペースが不足しているために除籍しているのが現状です。
④ 受付カウンターの慢性的混雑
受付カウンターが一般室・児童室の共用1か所のみのため、昨年1月には処理端末を5台から6台に増設し、自動貸出機を2台導入したものの年々増加する利用者に十分な対応ができていません。また、本来業務であるレファレンス(資料相談)への十分な対応も困難となっています。

⑥ 現図書館の跡利用

現中央図書館は24年が経過し、空調設備などの更新が必要ですが、まだ十分に使える施設です。そこで、新図書館整備後の現図書館の利用については、昭林公民館の図書室として、また、全市的な資料保存機能を含む図書館機能を一部残す方向で検討を進めていきます。

課題解決のために

このような課題を解決し、18万市民の生涯学習に対する多様なニーズに対応するためには、新たに「新図書館」を整備することが必要になってきました。

そこで、21世紀の安城にふさわしい機能や設備を備えた新図書館を、旧更生病院の跡地に整備することとし、現在、「中心市街地拠点整備基本計画」の策定と並行して、「新図書館基本計画」の策定を進めています。

問

図書館の機能などに関すること↓中央図書館
(☎76)6111
中心市街地拠点施設に関すること↓南明治整備課
(☎71)2245